生活
文化

44
まいん

くれぎしゃたくあと
呉木社宅跡
おばなしゃたくあと
尾端社宅跡

東平人の温かさがこのまちに残る
たくさんの思い出とともに

呉木社宅　昭和34年(1959)撮影　別子銅山記念館所蔵

くれきしゃたく 呉木社宅

の「呉木」という名称は、皮のついた木材で、山出しの板材「樗木」から由来しています。

呉木社宅は上・中・下と三つに分かれています。

大正10年度(1921)には78戸の家があり、賑わっていました。

呉木地区には東平地区との連絡の機能を持った呉木トンネル(通称「呉木マンプ」)がありました。

マンプという呼称は、坑道を間付と呼んでいるところから転じたようです。トンネルの長さは約200メートルありました。

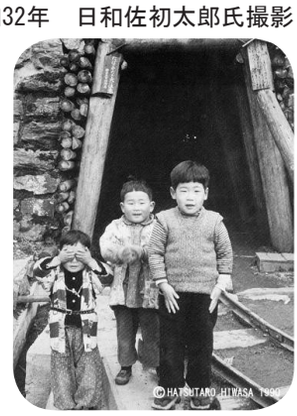
トンネルの中間付近には、病院で使う氷を保管するための貯氷庫がありました。閉山後は危険防止のため、東平側、呉木側の入口は閉ざされ、現在ではその位置は分かりません。

当時の写真を見ると呉木社宅は黒いトタン屋根の長屋が段々畑のように並んでいました。現在、社宅跡には植林が行われ、石段のみ残され当時の様子を伺い知ることはできなくなっています。

昭和43年　原 茂夫氏撮影

尾端社宅　昭和43年
原 茂夫氏撮影

東平の呉木側マンプ入口
昭和32年　日和佐初太郎氏撮影



おばなしゃたく 尾端社宅

の「尾端」という名称の由来は、一の森の尾根筋の端に当たるところからです。大正10年現在で、傭人すなわち職員社宅20戸、労働社宅が45戸の両方があり、合わせて65戸ありました。

東平坑閉坑直前の昭和42年(1967)には、全部で43戸でした。尾端社宅には、他の社宅のようにクラブ、集合所、守衛本部、派出所、豆腐屋、飯場などはありませんでした。現在の社宅跡は、頑丈な石垣の上に植林が行われ、緑の尾根に戻っています。

現在の尾端社宅跡

http://nmh.hearts.ne.jp/k/gaidobook/044/index.htm